

- 37 神にとって不可能なことは何もありません。」
- 38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

【 エペソ人への手紙 】

- 1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方において私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。
- 1:5 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。
- 1:6 それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。
- 1:7 このキリストにおいて、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

【 創世記 】

- 12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、 あなたの親族、あなたの父の家を離れて、 わたしが示す地へ行きなさい。
- 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、 あなたを祝福し、 あなたの名を大いなるものとする。 あなたは祝福となりなさい。
- 12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、 あなたを呪う者をのろう。 地のすべての部族は、 あなたによって祝福される。」

【 伝道者の書 】

- 3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2021年12月5日(日)

礼拝メッセージノート

「 赤子として来られた救い主 」

| クリスマス2021② ルカの福音書1:26-38 他 小野寺 望 牧師

【 ルカの福音書 1章 】

- 26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。
- 27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。
- 28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」
- 29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。
- 30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。
- 31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。
- 32 その子は偉い者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。
- 33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」
- 34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」
- 35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。
- 36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。

(4ページへ続く)

◆はじめに ～赤子として来られたメシア

1. 前回の復習

(1) 前回は、旧約預言（七十週の預言など）から2つのことを学んだ。

- ①七十週の預言から、メシアの初臨とその時期は既に計画されていた。
- ②イザヤ書には、メシアの初臨は受肉（神である方が人としての姿をとって生まれること）と、処女降誕によって来られること。

*エペ1：4～7によれば、天地創造の前から既に予定されていた。

(2) さらに新約聖書の記述から、バツレヘムで起こったイエスの誕生こそ、メシアの初臨の実現である。

*これらは使徒たちの共通理解であり、聖書の核になる主張である。

(3) 公生涯以前のイエスの記録は、福音書と使徒の証言が頼りである。

2. 今日の箇所は、(1)の②の預言が実際に成就する場面である。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| イエス降誕と神の愛の確かさ

*このメッセージは、イエスは神・人の両性を伴い、確かに降誕したことを学ぶものである。

=====

I 神の忠実さ ～イエス誕生はイスラエルへの契約の成就

1. アブラハム契約の成就 創12：1-3

(1) 救い主という祝福：「イエス」とは「主は救い」という意味。

- ①マリヤから生まれる男の子について。

*子の命名権は親にある。通常は、父親の親族の名を継ぐ習わしに従う。

*ユダヤ的には、名はその人の歩みや、その人そのものを表す。

- ②その子はユダヤ人を救い、異邦人をも救う。

- ③「アブラハムの子孫によって祝福を受ける」ことを意味する。

2. ダビデとの契約の成就 この契約はアブラハム契約の「子孫の約束」を基としている。

(1) ダビデ契約におけるメシアの初臨の預言

- ①メシアがダビデの家系から出る。 ②ダビデ王国を確立するようになる、

- ③イエスはヨセフを通して法的な意味で、また母マリヤを通して肉体的な意味で「ダビデの子」※となった。 §2サム7：12-16、イザ9：6-7

*メシアの称号 マタイ9：27、22：42、詩篇110：1

3. マリヤの処女懐胎 イザヤ7章のメシア預言の成就。 イザ7：14 a

(1) イスラエルの民は、メシアが誕生する日を心待ちにしていた。

*時代背景：バビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマと大国による支配。

また、数百年間神のことが途絶え、神殿は再建されたが神の栄光は戻らない、という「中間時代」における緊迫感。

(2) 時が満ち、神は約束のこぼを実行された。

- ①神には計画（タイムテーブル）があり、それによって事がなされる。伝3：11
- ②勝手な私の計画でなく、神とその計画に信頼し、従う者は幸いである。箴19：2
- ③それらは、全知全能の神（主権を持つ神）によってのみ確実になされる。

II 神の選びの確かさ ～受胎告知に臨むマリヤの霊性

1. 3つの霊的資質

(1) 素直な信仰：神との契約関係の中でこの受胎告知がなされたことを理解した。

(2) 謙遜：彼女は、自分の足りなさを十分に自覚していた。

- ①ナザレは取るに足らない、旧約聖書やタルムードの記事に用いられない町。
- ②メシアの母となることは、ユダヤ人の女性のあこがれ。ルカ11：27
- ③それは主の恵みに他ならず、ただ感謝するのみである。

(3) 従順さ：彼女は自らを女奴隷として主の前にささげる決心をした。

2. 婚約期間であり、霊性を備えたマリヤが用いられた。

(1) 婚約期間には両親と共に生活する。性的交わりはない。*年齢も10代前半と思われる

(2) 神の計画は人知れず、しかし確実に進められた。一連の出来事は神のわざ。

III 神のわざの史実性 ～イエス誕生および生涯の史実性

1. イエスの公生涯：イエスのバプテスマ以降を指す。

- (1) 使徒たちの熱心さの土台にある告白（イエスの死と復活を目の当たりにした）
- (2) ユダヤ教指導者との衝突の記録（タルムードの記述）、使徒や歴史家の証言。
- (3) バルコクバの乱以降のメシアニックシューへの激しい迫害。

2. 公生涯以前：誕生に関する歴史的評価

- (1) イエス誕生は、ローマによる人口調査という歴史的出来事の中で起こった。
- (2) 福音書に記された降誕劇は、聖書記者自身が目撃した訳ではない。しかし、その後の十字架、復活、昇天が起こったことから、新約聖書は旧約聖書から続く啓示であると判断し、すべてその通り実現したと受け取るべきである。

◆まとめ：イエス降誕と神の愛の確かさ

1. イエスの受肉が不可欠である理由

- (1) 罪の贖いを提供するため：汚れなき祭司の血のみが罪をきよめる（ヘブ10：1～10）
- (2) 神を人間に啓示するため：人間にとって理解可能な範囲内に神が入って来られた。
- (3) 真の人間性を示すため：罪の無い人間性がどのようなものであるかを示された。

*キリストを信じない者にとって、そのきよい生涯は罪を示し責め立てる苦いものであるが、信じた者にとってのキリストの生涯は素晴らしいお手本となる。

2. クリスマスを用いて、キリストを証しする者へ ～マリヤとパリサイ派の比較

*パリサイ派の皮肉：不信仰と迫害により、イエスの史実性を証明してしまった

*そこには主権を持たれる神の御手の働きがある。